

深川商工会議所・深川市議会

意見交換会報告書

平成 29 年 9 月 21 日

深川市議会議長 長野 勉 様

深川市議会意見交換会実行委員会
委員長 鶴岡 恵司

深川商工会議所・深川市議会意見交換会の結果について、次のとおり報告します。

日 時	平成 29 年 7 月 12 日（水）16 時 00～17 時 30 分
場 所	プラザホテル 板倉
テ ー マ	「JR 留萌本線と深川駅について」
出 席 者	深川商工会議所 富岡 正幸 会 頭 他 1 3 名 深川市議会 長野 勉 議 長 他 1 5 名
主 催	深川市議会意見交換会実行委員会



意見交換会（概要）

意見交換会の冒頭に、富岡会頭・長野議長より取り組みの経過報告を兼ねた挨拶がありました。挨拶及び意見交換会でのご意見は、要旨をまとめた形式で記載しています。

深川商工会議所 富岡会頭 挨拶

本日は「深川市議会と深川商工会議所との意見交換会」ということで、このような場を設けていただきました。JR北海道が見直しを表明した「10路線・13区間」ですが、仮にこれらをすべて廃止することとなりますと「北海道から何もなくなってしまうのではないか」というような危機感を持っております。



北海道商工会議所連合会では特別委員会を立ち上げ、私も委員として参加しています。

深川駅にはエレベーター設置が実現し、ようやく便利になり、利用者も増加すると期待していた矢先の留萌線廃止は全く納得がいきません。

一方で、留萌線沿線住民の中にも、多様な意見が存在するのも事実です。

長期的に問題をとらえれば「外国人旅行客のインバウンド」の増加も期待できますし、この留萌線は何としても守っていきたいと考えているところです。

今後の取り組みという事になりますが、先ほど申し上げた連合会から「深川からみなさんが留萌線に乗って留萌市を訪問する」という事になれば、「テレビ局の取材を同行させたい」というような提案もいただいているところです。

今後も「意見交換会」を継続していく中で、様々なテーマも取り上げていけるものと期待をしています。

商工会議所議員からの発言

- ・留萌線沿線住民の中にも、多様な意見が存在するのも事実。
- ・外国人旅行客のインバウンドが増加傾向にあり期待できる。
- ・深川からみなさんが留萌線に乗って留萌市を訪問する。
- ・今は加速度的に早いスピードで廃線する方向性で動いている。会議所も市議会も深川市も秩父別、沼田、留萌も総出でやらないと解決しないと思う。
- ・廃線になればどのようなデメリットがあるのか、また、継続にはどうゆうメリットがあるのか、声を出して商工会議所の議員と市議会と一緒に、後手にまわらないような対策が必要である。
- ・費用負担を沿線自治体に求めるのは反対だ。JRは公共性があり、国民の足としてこれからは国に負担をしていってもらうことが方向だと思う。
- ・市議会と会議所の軋轢があってもならないので、常にコミュニケーションを持つことが必要。
- ・国や北海道の責任にする状況ではないのではないかと考える。「我々の側に真剣に取り組む姿勢があるのか」この点が問われている。
- ・今後とも、こうした会合を積み重ねていく必要がある。

昨年11月にJR北海道は「道内における鉄路の半数が対象となる『路線見直し検討案』」を発表いたしました。その中に「輸送密度が200人未満の3路線についてはバス転換を検討する」このような内容でありまして、留萌線もこの中に入っております。

仮に留萌線が廃止という事になりますと、沿線の駅だけではなく深川駅にとってもダメージは大きいものと考えるところです。また、沿線自治体の経済活動に対する影響と併せて、現在取り組まれている北空知圏域の観光振興にも大きな影響を与えるものと強く危惧しております。



そこで、この間の取り組み経緯についてご説明いたします。

深川市と議会、商工会議所、JAも入りまして1市4町での「JR留萌線検討会議」を立ち上げ、これまでに2回の会議を開催しております。

一方で、留萌市議会の正副議長さんが3回深川に来訪されており、今後におきましては「私どもの側からも留萌市に足を運ぶべきではないか」このように考えております。

深川市議会としての対応ですが、昨年の12月、国と北海道知事宛の「JR留萌線の存続に向けた意見書」を可決しております。

また、本年6月、全国市議会議長会において「JR北海道に対する財政支援を国に求める」意見書を可決しております。

本日、商工会議所のみなさまと真摯なご議論をさせていただき、今後の取り組みについて協議できればと考えております。

市議会議員からの発言

- ・北海道は農業が基幹産業であるが、これからは観光に力を入れることが今後非常に大きな要素である。
- ・インバウンドを取込み、乗客増に繋げることが存続に向けて必要。(複数発言あり)
- ・経営安定化基金があると言うことで、JR北海道には国からの補助金が一切もらえない状態であり、これはおかしいのではと声を上げるべきではないか。
- ・沼田、秩父別から深川西高・東高に通う子供達が約70人、毎学年20人以上いる、もっと情報発信をしていく必要がある。
- ・国が責任を持つべき性格の民間企業であり、国が財政支援をすべきである。
- ・JR深川駅を起点に、路線バスを動かすことができないのかとの市民の声がある。

会議所側からの主な質疑

Q、深川市議会と秩父別・沼田・留萌の町議や市議との連携について伺う。

A、北空知議長連絡協議会で1市4町の中での連携はとっている。

Q、留萌線沿線自治体全体としての協議はどのような状況なのか伺う。

A、1市4町の検討会はあるが、沿線2市2町の協議までには至っていない。

「JR留萌線地域懇談会」平成29年8月21日(月)

深川商工会議所・留萌商工会議所・北海道商工会議所連合会共催

深川市より39名が、留萌本線に乗車しました。

(商工会議所13名 深川市長ほか職員11名 市議会15名)

行き 16:08(深川)～17:07(留萌) 帰り 20:20(留萌)～21:16(深川)



留萌商工会議所 塚本会頭挨拶

7月12日(水)の意見交換会のおり、「深川からみなさんが留萌線に乗って留萌市を訪問する」という提案が商工会議所からありました。

関係機関と準備を進めて頂き、「JR留萌線地域懇談会」が実現しました。

※報道機関の同行取材がありました。